

「小児重症A群溶血性レンサ球菌感染症に関する全国調査の実施」

ご協力のお願い

現在、当施設は、千葉大学真菌医学研究センターの倫理審査委員会の承認を受けた「小児重症 A 群溶血性レンサ球菌感染症に関する全国調査の実施」に関する研究を協力医療機関として実施しています。本研究への協力を望まれない方は、その旨を主治医までお申し出下さいますようお願いいたします。

1. 対象となる方

2019年1月1日から2024年3月31日までの5年3か月間に、本医療機関で治療した重症A群溶血性レンサ球菌感染症診断を受けた18歳未満の方

2. 研究課題名：

「小児重症A群溶血性レンサ球菌感染症に関する全国調査」

3. 研究実施機関：千葉大学真菌医学研究センター感染制御分野

(研究代表者：石和田稔彦 研究担当者：多田歩未)

4. 研究の目的と方法：

A群溶血性レンサ球菌は小児の咽頭炎の原因菌として一般的ですが、ときに膿胸や関節炎、毒素性ショック症候群、壊死性筋膜炎などの重症感染症をきたします。しかし、過去に日本国内で小児に焦点を当てた重症A群溶血性レンサ球菌感染症の大規模な調査をされたことがなく、その実態は明らかになっていません。

COVID-19の規制期間中、A群溶血性レンサ球菌による感染症は減少していましたが、近年重症A群溶血性レンサ球菌感染症が増加傾向にあると世界各国で報告されています。日本の成人の報告からも同様の傾向が伺われますが、小児例に焦点を当てた報告はありません。

今回私たちは、日本国内における小児重症A群溶血性レンサ球菌感染症の実態を調査するとともに、COVID-19パンデミック前後の疫学的な動向を追うことを目的とした調査を行うことになりました。全国の主な医療機関からCOVID-19流行以前から重症A群溶血性レンサ球菌感染症の診断で治療された方の情報を収集し、以下の情報を各医療機関の医師よりWeb上のパスワードで管理されたデータベースに登録していただき、千葉大学真菌医学研究センターで解析いたします。

収集し研究に利用する情報：

性別、発症時年月齢、バイタルサイン・症状、先行エピソードの有無、GAS感染症の家族歴、GAS感染症の所属集団内での流行の有無、入院時の血液検査、GASが分離された材料と分離同定法、感染症の診断名、治療内容・期間、入院・退院日、ICU滞在期間、転帰、劇症型レンサ球菌感染症届出の有無：カルテから収集するデータは、氏名・カルテIDを削除し、研究用のIDを付与して、特定の個人を容易に識別できないよう加工をして利用します。氏名と研究用IDを一致させるための対応表は、院内で厳重に保管され、千葉大には提供されません。また、本調査のために、新たに検査や治療を行うことはありません。

試料・情報の管理について責任を有する者：千葉大学真菌医学研究センター感染制御分野 石和田稔彦

利益相反について：

利益相反とは、外部との経済的な利益関係（資金提供など）によって、研究データの改ざん、特定企業の優遇など研究が公正かつ適切に行われていないのではないか（企業に有益な結果しか公表されないのではないか）と第三者から懸念されかねない事態のことを指します。本研究の計画、実施、発表に関して可能性のある利益相反

公開および施設貼り出し用資料

はありません。

お問い合わせ先：

本研究のご自身に関することに関しては、主治医にご相談ください。

〒152-8902 東京都目黒区東が丘2-5-1 東京医療センター 小児科

当院責任者：前田 直則

TEL：03-3411-0111(代表の電話番号)

本研究の内容に関するお問い合わせは以下までご連絡ください。

〒260-8673 千葉県千葉市中央区亥鼻1-8-1 千葉大学真菌医学研究センター

研究代表者：石和田 稔彦（研究担当者 多田歩未）

TEL：043-226-2799（代表の電話番号）